

【熊本県】HP掲載版※

自治体意見・要望	気象庁回答
<p>大雨の特別警報発表基準について、「台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合」としており、昨年の「平成24年7月九州北部豪雨」級の大雨についても、この対象になると聞いている。</p> <p>昨年の災害を踏まえ、本県が検証を行った結果、「大きな災害につながる可能性のある気象情報については、①適時・適切な情報提供及び注意喚起、②住民に対し、より危機感が伝わるような表記の検討、の両者について気象台に要請していくことが必要」としており、こうした点からも、今般の特別警報の新設は、本県が期待する方向性に即したものであるとともに、今後防災対策を推進していく上においても、その的確な運用が重要であると受け止めている。</p> <p>また、「大雨特別警報」に係る具体的な基準については、雨量等の数値的基準の設定・公表が困難と聞いているが、「平成24年7月九州北部豪雨」級の大雨が対象になり、適切な警報が発表されるのであれば、特段の問題はないと考える。</p> <p>一方、この運用に当たっては、「府県予報区」を単位として発表すると聞いている。このような運用を行った場合、「平成24年7月九州北部豪雨」を例にすると、「記録的短時間大雨」が発表された県北や阿蘇地域以外においても、「大雨特別警報」が発表されることになる。県内では、「大雨警報」と「大雨特別警報」の2種類の警報が混在することはなくなるものの、「大雨特別警報」のエリアが広範囲になる結果、真に警戒が必要となるエリアが特定されにくくなり、自治体の防災体制の混乱なども想定される。</p> <p>このようなことから、「大雨特別警報」については、「府県予報区」(県内の全域)で発表するのではなく、真に警戒が必要となる地域(市町村単位)を対象に、よりエリアを限定して発表するよう、その運用の在り方について再検討を望むものである。</p>	<p>特別警報の対象となる現象は府県予報区程度の広がりをもっていることと想定していることから、当面は、府県予報区単位で特別警報を判断し当該府県予報区内の警報を特別警報とする運用を行います。今後、特別警報の実際の発表状況や効果等について検証しつつ、必要に応じ見直しを行ってまいります。</p>
<p>「大雨特別警報」の発表文については、現行文と同形式で発表する予定と聞いているが、本情報の趣旨に鑑み、情報の受け手(自治体、住民等)が視覚的にも見やすく、緊急性や事象の重大さをいち早く認識できるように仕組み(発表文の形式)を検討することが必要と考える。</p> <p>(昨年の九州北部豪雨では、7月12日の午前6時45分に「これまでに経験したことのないような大雨になっています。この地域の方は厳重に警戒してください」という短文形式の気象情報が、熊本地方気象台から全国で初めて発表されたが、これを受けた自治体においては、他の防災気象情報と同様の取扱いをした事例もあるため。)</p>	<p>防災に関する法改正であり、早期の実施が適当であることから改正法公布後3ヶ月以内の運用開始としました。このため、現行形式の範囲内の情報文で実施することをご理解ください。なお、視覚的により区別しやすい形式の発表文も用意しており、希望機関には配信するので、地元気象台とご相談ください。</p>
<p>本制度の趣旨に鑑み、特別警報が発表される際には、緊急速報メール(エリアメール等)が自動配信されるよう、気象庁と携帯電話事業者との協議を望みます。</p>	<p>特別警報を住民に伝達する上で、緊急速報メールは有力な手段と考えています。</p> <p>現在、緊急地震速報及び津波警報については、直接携帯電話事業者より緊急速報メールで提供されているところです。それらに加え、気象庁では、気象や噴火の特別警報の提供についても携帯電話事業者等と調整しているところです。</p>
<p>また、特別警報の新設に当たっては、各自治体が独自に整備する情報通信システムの設計変更が必要となる場合があることから、県及び市町村に対する早期の情報提供及び当該改修に伴う予算上の措置について特段の御配慮をお願いします。</p>	<p>特別警報については、甚大な災害に速やかに対応すべく、法律公布後三ヶ月以内に運用を開始することとしており、都道府県及び市町村が行う特別警報の通知や周知の措置は、現行の警報等の防災情報を伝達するシステム等においても対応可能となるよう配慮しています。</p> <p>このため、特別警報の運用開始にあたっては、現行のシステムを用いる場合でも実施可能と考えていますが、一方で、県や各市町村における警報等の伝達手段の拡充については、今後の課題として、関係省庁とも連携し、その推進に努めてまいります。</p>